

令和 3 年 6 月 19 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K01643

研究課題名(和文) 東アジアにおける舞踊の再創造と伝承 - 琉球・韓国・中国・台湾の舞踊技法 -

研究課題名(英文) Re-creation and Transmission of Dance in East Asia: Dance Techniques in Ryukyu, Korea, China and Taiwan

研究代表者

波照間 永子 (Hateruma, Nagako)

明治大学・情報コミュニケーション学部・専任准教授

研究者番号：80336487

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、申請者がこれまで着手してきた琉球舞踊の分析手法に基づき、東アジア地域(琉球・韓国・中国・台湾)における舞踊技法の比較を企図したものである。

現存する舞踊技法のなかから、共通の小道具を用いる舞踊技法に焦点を当て、その動作特性を分析・分類するとともに、表現特性を明らかにした。その結果、各地域の舞踊技法に共通する特性と独自の特性を抽出することができた。さらに、同地域の舞踊における主要な演目が再創造され、伝承される過程を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、申請者の専門領域である琉球舞踊の特徴をより明確化するだけでなく、東アジアにおける個々の舞踊文化の「多様性」の尊重と相互理解を促進する場を構築することができた。今後は、同地域(琉球・韓国・中国・台湾)の研究者および実演家を繋ぐネットワークを基盤に、舞踊の主要な演目が誕生し再創造され伝承される過程について、社会文化的背景を踏まえ、通時的に精査することを課題としたい。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this study is to compare dance techniques in East Asia (Ryukyu, Korea, China and Taiwan) based on the analysis method of Ryukyuan Dance that the applicant has utilized. Specific dance techniques using common props were focused on, the performance characteristics were analyzed and categorized, and also the expression characteristics were revealed among existing dance techniques. As a result, specific characteristics of dance techniques common to each area and unique characteristics were extracted. The process of re-creation and transmission of main dance programs in the areas were also examined.

研究分野：比較舞踊学、芸術実践論、身体表現論

キーワード：琉球舞踊 韓国舞踊 中国舞踊 台湾舞踊 技法 比較舞踊学 伝承 再創造

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

琉球は地理的・歴史的にもアジア太平洋地域の要として位置づけられる。同地域の舞踊は手指によって多様な心象を表現するという共通の特徴があり、これまでも手指をはじめとする上肢動作の類似性が指摘されてきた (Lomax 1972<sup>\*1</sup>・三隅 1986<sup>\*2</sup>他)。しかし、その特性を明らかにした研究は少ない (Kaeppler 1972<sup>\*3</sup>)。琉球舞踊の技法を明らかにすることは、アジア太平洋地域の舞踊文化を記録・解明する一助になるだけでなく、同地域の舞踊を比較研究する手法を提示できると考える。

## 2. 研究の目的

本研究は、申請者がこれまで着手してきた琉球舞踊の分析手法を用い、東アジア地域 (琉球・韓国・中国・台湾) における舞踊技法の比較を企図したものである。同地域は日本をはじめ諸外国の統治を経た複雑な歴史を共通の背景とし、一端途絶えた古典舞踊を近代以後、「再創造」して今に伝えている。

様々な舞踊文化のなかでも、とりわけ社会文化性を強く反映するとされる「舞踊技法」に着目し、その「再創造」のプロセスを解明・共有するとともに、現存する「技法」の動作特性と伝承方法の比較を試みた。それにより、申請者の専門領域である琉球舞踊の特徴をより明確化するだけでなく、東アジアにおける個々の舞踊文化の「多様性」の尊重と相互理解を促進する場を構築できると確信する。

## 3. 研究の方法・組織

上記の目標を達成すべく、明治大学研究・知財戦略機構 特定課題研究ユニット「アジア太平洋パフォーミング・アーツ研究所」RIPPA を設置し次の5つの研究プロジェクトを軸に共同研究を行った。方法の概要を記す。

### (1) 「扇子」を用いる舞踊技法の比較

現存する舞踊技法のなかから、「扇子」を用いる舞踊技法の把握様式に焦点を当て、鎌倉 (1989<sup>\*3</sup>・1999<sup>\*4</sup>) の指標により分類するとともに、技法の表現特性を比較・考察した。

### (2) 韓国舞踊・中国舞踊の再創造プロセスの考察

一端途絶えた舞踊を再創造する過程について、史料および残存する舞踊譜の分析を通して考察した。

### (3) 琉球舞踊のオーラル・ヒストリー研究

国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者 (総合認定) の一人、志田房子のオーラル・ヒストリー調査に基づき、代表作《鎮魂の詞》(しずたまのうた) 創作の過程、作品構成、背景を明らかにした。

### (4) 戦前・戦後における琉球舞踊：技法の変容

戦前 (1986) に日本青年館にて開催された「琉球古典芸能大会」の記録映像を分析し、男踊り (二歳踊り) の代表的な演目にみる主要な技法の変容の様相を考察した。

### (5) 琉球古典舞踊《四つ竹》と韓国宮廷舞踊《牙拍舞》

琉球と韓国の王朝期の舞踊において、手にもつ楽器 (小道具) で拍を打つ演目を対象に、その創造過程について主に古文書や絵巻 (図) を用いて分析した。

## 組織 (研究協力者)

田銀子 (成均館大学校舞踊学科 教授)

朴暖映 (成均館大学校舞踊学科 兼任教授)

富燦霞・蔡美京・森田ゆい・小林敦子・松永明 (RIPPA 客員研究員)

## 4. 研究成果

研究成果の概要を先に示したプロジェクト別に記す。

### (1) 「扇子」を用いる舞踊技法の比較

#### 琉球舞踊と韓国舞踊の扇を用いる技法の比較

2016 年度より成均館大学校舞踊学科の田銀子・朴暖映両教授と継続している琉球および韓国の扇を用いる技法 (持ち方の類型) の比較に関して、韓国歴史記録学会 (SDDH) 学術機関誌に投稿し査読を経て公刊した (Chun, Park and Hateruma 2017)。また、2017 年度は新たに中国舞踊も対象に加え扇の持ち方の類型化を試み、比較舞踊学会にて富燦霞が口頭発表した。

#### 琉球舞踊・韓国舞踊・日本舞踊における扇の技法の象徴性

扇の技法と象徴性について調査した。琉球舞踊・日本舞踊・韓国舞踊の主要な作品における扇の技法の象徴性を中心に分析し、その成果を国内外の学会にて報告するほか、年度末に明治大学リバティーホールにて一般に公開した。日本舞踊の調査については、森田ゆいが担

当した。また本研究の内容を踏まえ、共通の小道具「扇」を用いて、琉球舞踊・日本舞踊・韓国舞踊の国際共同制作《雪月風花》を初演・公開した。制作に際して公益財団法人日韓文化交流基金の助成を得た。

### 琉球舞踊・韓国舞踊・日本舞踊・中国舞踊の技法とその象徴性

上記について、2018年度は新たに中国舞踊の成果も加え考察した。その成果を明治大学情報コミュニケーション学部主催「世界のキャンパスから」にて一般公開し、概要を報告書（波照間 2019）にまとめた。また、本研究の成果を踏まえ、国際共同制作《雪月風花 2019》を上演した。<研究協力者：朴暖映・富燦霞・森田ゆい> <制作協力者：志田房子（琉球舞踊重踊流 宗家）、田銀子・西川祐子（日本舞踊 西川流 師範）、曾照薫（国立台湾芸術大学准教授）他>

## (2) 韓国舞踊・中国舞踊の再創造プロセスの考察

**韓国舞踊・中国舞踊の再創造と伝承：**一端途絶えた舞踊を再創造する過程について、蔡美京他が「日韓併合時代における『處容舞』の分析」からと題する成果を、また、富燦霞が『中国古典舞教学体系創建発展史』から考察した現代中国舞踊の変遷と現況についての成果を、日本スポーツ人類学会第19回大会（2018）にて報告した。

**韓国舞踊《處容舞》における舞踊譜の研究：**蔡美京が、韓国重要無形文化財第39号に指定されている「處容舞」の舞踊譜を分析した。現存する4つの舞踊譜 - 楽学軌範(1610)、呈才笏記(1893)、李王朝雅楽部(1929)、李王朝雅楽部生のノート(1931) - を比較し、フロアパターンの変容を明らかにした。その成果を比較舞踊学会第29回大会(2018)にて報告した。

## (3) 琉球舞踊のオーラル・ヒストリー研究

**志田房子のオーラル・ヒストリー研究：**沖縄戦で途絶えた舞踊が復活する経緯の一端を、「戦前・戦中・戦後を生きた舞踊家（志田房子）のオーラル・ヒストリー」の聴取からまとめ人体科学会第27回大会シンポジウムで報告した（波照間 2019）。

**志田房子作《鎮魂の詞》の表象研究：**志田房子氏の創作舞踊の代表作《鎮魂の詞》について、上演空間・伴奏音楽・身体技法の3つの要素から分析し『比較舞踊研究』第25巻に原著論文を公開した。

## (4) 戦前・戦後における琉球舞踊：技法の変容

### 記録映像「琉球古典芸能大会」にみる琉球舞踊の技法の変容

琉球舞踊の戦前の舞踊を収録した映像「琉球古典芸能大会」（日本民俗協会主催、日本青年館、1936年）を対象に動作分析を行い、現在の舞踊との共通点と相違点を明らかにした。その成果を芸能学会研究大会シンポジウムにて発表した（波照間 2017）。

### 戦前・戦後における二才踊り《高平良万歳》の技法の変容

上記シンポジウムにて口頭発表した内容の一端をまとめた論考を、『藝能』第26号（芸能学会誌）に発表した（波照間 2020）。

## (5) 琉球古典舞踊《四つ竹》と韓国宮中舞踊《牙拍舞》

### 拍を打つ小道具「四つ竹」「四塊」「牙拍」を用いる舞踊の研究

琉球古典舞踊《四つ竹》と韓国宮中舞踊《牙拍舞》に関する研究と、それに基づく共同制作《拍夢》（仮題）を、明治大学大学院情報コミュニケーション研究科創設10周年記念シンポジウムにて公開した。

関連研究として、日本の伝統芸能における小道具「四つ竹」、台湾南管音楽における「四塊」と舞踊、に関する研究報告も実施した。本研究の遂行にあたり6名の研究者および実演家の協力を得た。<研究協力者：朴暖映・蔡美京・富燦霞・小林敦子><制作協力者：志田房子・田銀子他>

### 琉球古典舞踊《四つ竹》の研究

上記シンポジウムにて口頭発表した研究をさらに発展させ、「琉球古典舞踊《四つ竹》の創造と伝承：近世琉球王府による演出の特性」と題する論文にまとめた（2020年3月）。本論文を『舞踊学』第43号（舞踊学会誌）に投稿し査読を受け採択され（2020年6月）、12月に発刊された。<研究協力者・共著者：松永明>

## その他（本課題に関連する成果）

琉球舞踊における「袖」を用いる技法を、韓国舞踊の技法と比較した。その成果を「琉球舞踊にみる衣装『袖』と身体技法 - 韓国舞踊との比較の試み」（『スポーツ人類学の世界～早稲田の窓から～』所収、2019）と題する論文にまとめ公開した。<共著者：金チェウォン（韓国文化芸術教育振興院）・田銀子（成均館大学校）>

## 課題

以上の5つのプロジェクト研究を実施し成果を公開した。技法研究に関しては、「共通の小道具を用いる舞踊」を対象に比較した。今後は、これらの舞踊が誕生し再創造され伝承される過程

について、社会文化的背景を踏まえ通時的に精査することを課題としたい。

#### 引用文献

- \*1) LOMAX, A. ; BARTINEFF, I. ; PAULAY, F. [1972] ‘Choreometrics: A Method for the Study of Cross-Cultural Pattern in Film’, *CORD Research Annual* : 35-44 .
- \*2) 三隅治雄[1986]「コネリ手文化圏と沖縄の芸能」法政大学沖縄文化研究所編『沖縄文化の古層を考える：法政大学第7回国際シンポジウム』法政大学出版：220-240.
- \*3) KAEPLER, Adrienne L. [1972] ‘Method and theory in analyzing dance structure of Tonga dance’, *Ethnomusicology* 16(2) : 173-217.
- \*4) 鎌倉矩子[1989]『手のかたち 手のうごき』東京:医歯薬出版.
- \*5) 鎌倉矩子[1999]「上肢のバイオメカニズム - 運動・動作学的見地から - 」『バイオメカニズム学会誌』Vol. 23, No.2:71-76.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 波照間永子	4. 巻 第26号
2. 論文標題 記録映像「琉球古典芸能大会」にみる琉球舞踊の身体と伝承	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 藝能	6. 最初と最後の頁 42-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 波照間永子・松永明	4. 巻 第43号
2. 論文標題 琉球古典舞踊《四つ竹》の創造と伝承：近世琉球王府による演出の特性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 舞踊學	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 波照間永子	4. 巻 25
2. 論文標題 志田房子作 琉球舞踊『鎮魂の詞』の表象 - 空間・音・身体の重層性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『比較舞踊研究』	6. 最初と最後の頁 12-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 波照間永子	4. 巻 18
2. 論文標題 <実施報告>東アジアの舞踊における「扇」と身体 - 中国・韓国・琉球・日本の舞踊をめぐる -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『情報コミュニケーション学研究』	6. 最初と最後の頁 125-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chun, E., Park, N., and Hateruma, N.	4. 巻 47
2. 論文標題 Korea, Japan Intangible Cultural Heritage traditional Dance of Expression Medeia Comparative Study:Focusing on Kim Bai-bong's fan dance and Kagyadifu's fan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 SDDH Journal (The Society for Dance Documentation & History)	6. 最初と最後の頁 197-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.26861/sddh.2017.47.0197	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 波照間永子
2. 発表標題 琉球舞踊《四つ竹》の再創造と伝承
3. 学会等名 明治大学大学院情報コミュニケーション研究科創設10周年記念シンポジウム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朴暖映・蔡美京
2. 発表標題 韓国舞踊《牙拍舞》の再創造と伝承
3. 学会等名 明治大学大学院情報コミュニケーション研究科創設10周年記念シンポジウム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富燦霞
2. 発表標題 台湾南管音楽における「四塊」と舞踊・
3. 学会等名 明治大学大学院情報コミュニケーション研究科創設10周年記念シンポジウム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林敦子
2. 発表標題 日本の伝統芸能における「四つ竹」
3. 学会等名 明治大学大学院情報コミュニケーション研究科創設10周年記念シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志田房子（振付・監修）・田銀子（振付）、成均館大学校舞踊学科・琉球舞踊重踊流（出演）、波照間永子（原案構成）
2. 発表標題 国際共同制作《拍夢》
3. 学会等名 明治大学大学院情報コミュニケーション研究科創設10周年記念シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 波照間永子
2. 発表標題 記録映像「琉球古典芸能大会」（1936）にみる琉球舞踊の身体と伝承
3. 学会等名 芸能学会研究大会 第2部/シンポジウム 琉球舞踊 むかし 今 みらい - 舞踊身体の伝承を考える - （招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 蔡美京
2. 発表標題 處容舞（チヨヨンム）の舞踊譜考 - 1610年から1931年の四つの年代における比較 -
3. 学会等名 比較舞踊学会第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 朴暖映・森田ゆい・富燦霞・波照間永子
2. 発表標題 東アジアの舞踊における「扇」と身体 - 中国・韓国・琉球・日本の舞踊をめぐる -
3. 学会等名 <公開講座>明治大学情報コミュニケーション学部「世界のキャンパスから」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 波照間永子
2. 発表標題 沖縄戦を生きた舞踊家“志田房子のオーラル・ヒストリー” 77年の足跡
3. 学会等名 人体科学会第27回大会シンポジウム“舞踊と身体 - 生きる・動く・踊る”（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 波照間永子
2. 発表標題 琉球古典舞踊における「扇」の技法～東アジアの舞踊との比較をめざして～
3. 学会等名 日本体育学会第68回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 蔡美京・朴ナニョン・田銀子
2. 発表標題 韓国舞踊における「扇」の技法－金白峰作『扇の舞』を中心に
3. 学会等名 第28回比較舞踊学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 蔡美京
2. 発表標題 日韓併合時代（1910-1945）における「處容舞」の分析
3. 学会等名 日本スポーツ人類学会第19回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 富燦霞
2. 発表標題 反思與探索-中國舞蹈在台灣發展的未來
3. 学会等名 国立台湾芸術大学舞踊学科主催国際舞踊論文発表会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 富燦霞
2. 発表標題 中国舞踊における扇の象徴性と技法
3. 学会等名 比較舞踊学会第28回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 富燦霞
2. 発表標題 『中国古典舞教学体系創建發展史』にみる現代中国舞踊の歩み
3. 学会等名 日本スポーツ人類学会第19回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 寒川研究室（共著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 虹色社	5. 総ページ数 289
3. 書名 スポーツ人類学の世界～早稲田の窓から～	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>明治大学 研究・知財戦略機構 特定課題研究ユニット アジア太平洋パフォーミング・アーツ研究所  <a href="http://riappa-meiji.jp/">http://riappa-meiji.jp/</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	田 銀子  (Chun Eunja)	成均館大学校・芸術大学舞踊学科・教授	
研究協力者	朴 暖映  (Park Nannyon)	成均館大学校・芸術大学舞踊学科・兼任教授	
研究協力者	富 燦霞  (Fu Sanka)	明治大学・研究・知財戦略機構 アジア太平洋パフォーミング・アーツ研究所・客員研究員  (32682)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	蔡 美京  (Sai Mikyung)	明治大学・研究・知財戦略機構 アジア太平洋パフォーミング・アーツ研究所・客員研究員  (32682)	
研究協力者	森田 ゆい  (Morita Yui)	明治大学・研究・知財戦略機構 アジア太平洋パフォーミング・アーツ研究所・客員研究員  (32682)	
研究協力者	小林 敦子  (Kobayashi Atsuko)	明治大学・研究・知財戦略機構 アジア太平洋パフォーミング・アーツ研究所・客員研究員  (32682)	
研究協力者	松永 明  (Matsunaga Akira)	明治大学・研究・知財戦略機構 アジア太平洋パフォーミング・アーツ研究所・客員研究員  (32682)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 明治大学大学院 情報コミュニケーション研究科 創設10周年シンポジウム	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 日韓交流レクチャー公演「韓国と日本の舞踊にみる扇」	開催年 2017年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
韓国	成均館大学校芸術大学舞踊学科		